

身延高校と山梨県立大学の連携講座の成果

山梨県立身延高等学校

地方創生★ 政策アイデア コンテスト2017

チームラボ賞

<https://contest.resas-portal.go.jp/2017/>



MINOBU HIGH SCHOOL



おもてなしのやまなし知事表彰式 (H29)

高大連携講座



指導担当教諭とのゼミ形式の学習

「身延で働きたいあなたへ」



「身延で暮らしたいあなたへ」



「生きていくにはいくらかかる？」

～生きていくには、お金の勉強が必要です～

- 1. 収入
- 2. 支出
- 3. 貯蓄
- 4. 投資

大人になると、自分でお金を稼ぐ、そのお金を使って、そのお金で生活を営んでいくことが、先立って必要になってきます。特に、自分の生活費の支払いには、あらかじめお金の勉強をしておくことが大切です。



県立大でプレゼン



伊藤教授の指導

H30年度は、身延高校生に向けた就職情報誌「身延で働きたいあなたへ」を作成しました。

H31(R1)は、身延町に就職した後は、どのような生活ができるのかを調査しました。就職してから亡くなるまでに1.5億円くらいの支出があり、正社員なら2億円くらいの所得が得られることがわかりました。

その他にも、自動車を購入してそれを維持するためにどれくらいの費用が掛かるのか、一人暮らしにどのくらいかかるのか、結婚式の費用なども調べました。



▲成果発表 (2019は新型コロナウイルスの影響で発表会が中止になりました。この写真は2018のものです。)

実施内容と回数（H31）

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	未来の私、未来の身延（峡南地域）
第2 ～3回	私たちがつくる新たな物語 今年度の活動内容を考える
第4 ～9回	活動内容の進捗状況について （含：フィールドワーク）
第10回	「発表」

目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

生徒の感想



ちゃんと働いて、ちゃんと稼いで、きちんと貯金して、真面目に生きていく理由がわかった。

就職する人は、リーフレットを見てください。就職先の会社の選び方、この町でどんな生活ができるのかがわかります。

生きていくにはお金が必要なことを知っているけど、どれくらい必要なかが具体的にわからない。身延町に就職して、どれくらいの収入があって、どれくらいの生活ができるのかが分かった。



令和元年度のまとめ

答えのない課題に対して、集団で考えをぶつけながら、よりよい解を見いだす活動を通じて、「0から1を作り出す力」「一歩踏み出す力」を身に付け、生きる力の獲得を目指し活動している。

今年度は、高校生の考える地域貢献策として、峡南地域の職業情報誌「身延で暮らしたいあなたへ」を作成した。

2017年度以前の活動には、“地方創生☆政策アイデアコンテスト”受賞や“やまなしおもてなし知事表彰”と華々しい活動の成果があった。2018年度からは、高校生に目を向けて、“困っている高校生を救おう！”をテーマに活動を始めた。昨年度は、「峡南地域ではどのような就職先があるのか？」をテーマに、労働者がどのような気持ちで働いているのかを調査した。これをまとめたものが、「身延で働きたいあなたへ」だった。昨年度は、峡南地域に就職するとどのような生活ができるのか調査した。豊かな生活は保障されているのか？退屈な毎日になってしまうのか？甲府や東京とどのように違った生活になるのかの調査をした。

このような取り組み事例は全国的にも希有である。「自分の住んでいる町を少しでも良くしたい」という強い気持ちで、毎回の講座や課題に熱心に取り組むことは、何より大きな成果である。それ故、生徒はこの講座に確かな手ごたえを感じている。年代や環境の違う人とかわり、グループで協働し、地域貢献策を実践する。これにより、自分と自分が生活する町（社会）とのつながりの深さ等を再確認する。そして仲間を作って行動すれば、少しでも状況が変えられることを知る。現実社会では、問題解決の方策を考えても、それが実現される機会は非常に限られている。その点、意欲を持って主体的に取り組む、成果物を生み出すこの講座の価値は計り知れない。